

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

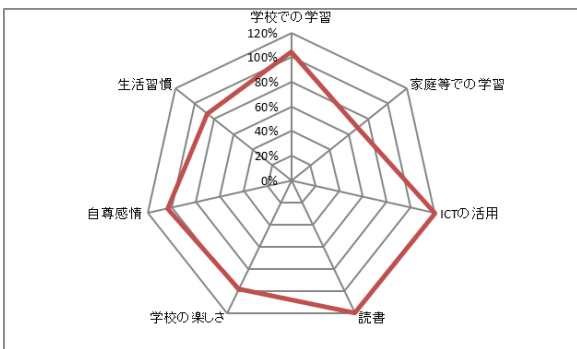
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国を上回っている。 ○「読むこと」では、全国の平均正答率を下回っている。児童質問紙の読書の時間が少ないことも同時に挙げられる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題。(思考・判断・表現・記述式) ○話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題(知識・技能・選択式) ○漢字を使って書き直す問題。(知識・技能・短答式)	
	努力が必要な問題	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題。(知識・技能・選択式)	
算数	全体的な傾向や特徴など	○全体的に平均正答率は、全国を下回っている。 ○領域に関係なく、短答式の問題の正答率が低い。 ○「数と計算」の一部と「変化と関係」領域の正答率が特に低い。「数と計算」領域では、最小公倍数を求める問題以外では正答率が高く、乗法及び除法の計算は解答することができる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題。(思考・判断・表現・記述式)	
	努力が必要な問題	○百分率で表された割合を分数で表す問題。(知識・技能・短答式)口	
理科	全体的な傾向や特徴など	○全体的に平均正答率は、全国を下回っている。 ○「地球」を柱とする領域の正答率が特に低い。中でも、観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ問題に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	○実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題。(思考・判断・表現・選択式)	
	努力が必要な問題	○メスシリンダーという器具について問う問題。(知識・技能・短答式) ○昆虫の体のつくりを問う問題。(知識・技能・選択式)	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○全ての教科の授業の中で、タブレットを使用する機会を設け、活用することができている。今後も積極的にタブレットを取り入れていく。 ○自分にはよいところがあると思う児童や人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合が高く、様々な行事でも友達と協力し、率先して取り組む児童が多い。 ○読書が好きな児童は多いが、家庭で読書をする児童は少ない。また、家庭学習の時間が非常に少なく、家庭で自主的に学習する態度を育てていく必要がある。学校からの課題で分からないときは、家族に聞くと答えた児童が多く、家庭とも連携して取組を進めていく。 ○全国平均に比べ、朝食を毎日食べている児童の割合が少ないため、食育の取組を進め、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 読む力を身に付けるためにも、図書時間の確保、各教科等の学習における図書室の活用は引き続き行っていき、読書習慣の定着を図る。
- 既習事項が定着できていない教科や単元は、宿題や朝自習など活用し復習の機会を設ける。
- 家庭学習の在り方を見直し、学年に応じた時間・内容の家庭学習が行われるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 児童の家庭での学習・読書習慣の定着に向け、引き続き学校だよりやHP等を通して保護者に理解と協力を仰ぎ、連携して取り組んでいく。
- 栄養教諭を中心に食育週間や食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。
- 地域の施設やまちづくり協議会と協力、連携し、教育活動の推進に努める。